

市民ワークショップ 参加者の皆様のご発言(抜粋)

まちづくりに関すること

- ・まちづくりというと大きな話で難しい印象だが、花壇を作る、清掃活動に参加をするなど自分ができる範囲で行動することもまちづくりに参加していることだと思う。
- ・参加している自覚がなくても気が付いたらまちづくりに参加しているという人が増えるシステムを構築する。
- ・周りの中学生でまちづくりに参加している人は半分くらいかなと思う。

まちの魅力づくりに関すること

- ・長良川で風を感じて鵜飼を見るなど、現地に行く価値のある岐阜市の魅力を大切にしておくことが重要。
- ・デジタル化で効率化された一方で、予測不能な偶然の出会いや出来事は失われたのではない。計画外で面白いことが起きることがまちの価値になる。

多様性を認め合うこと

- ・まちには様々な人がいて「住みやすいまちにしたい」という最終的な思いはみんな同じかもしれないが、求めるものや視点は一人ひとり違う。それらを拾い上げていけば、多くの人にとって楽しいと感じるまちになる。
- ・まちづくりを進めていく上で、互いのことを尊重することは重要だと思う。
- ・まちづくりにおいて色々な意見が出るのは当たり前。参加する人がしない人の思いを考えながらやっていくことが大切だと思う。思いやりの心がまちづくりの第一歩になると思う。
- ・まちには高齢者や障がいのある人、外国人など、多様な人が住んでいる。互いの個性を認め合うことで新たな発見をすることもある。
- ・多様な人々の意見を取り入れることで、みんなが住みよいまちになる。

人やまちの成長を促進すること

- ・みんなが一緒にやっていること、個人がそれぞれやっていることを褒め合える雰囲気が大事だと思う。そうすればいろんなことに挑戦しやすくなるし、挑戦を応援する土壌もできてくる。
- ・立場、年齢、性別に関わらず、自分のやりたいことができる、許容してくれるおおらかさ、寛容性のあるまちにしたい。
- ・大人が楽しそうにまちづくりにかかわっている姿を子どもたちに見せるのは大事だと思う。子どもに良い影響を与え、まちが持続していく力になると思う。

協働に関すること

- ・市民と行政は違う強みを持っていると思うので、協力して成果をあげるためには、行政が今困っていることや市民と一緒にやりたいことを示す機会があるとよい。

誰一人取り残されないまちに関すること

- ・子育てをしながら働きたいと思っても、周りの理解や協力などが得られず、希望に合うような働き方が出来ないこともある。
- ・さまざまな子育て支援などの選択肢があることを知らずに生きづらさを抱えている人たちがいる。選択肢を増やすことも大切だが、今ある選択肢を知ってもらう方法を考え、誰一人取り残されないようにすることも大切。

岐阜市への愛着や誇りに関すること

- ・原体験を振り返ることでシビックプライドが育まれる。
- ・子どもといろんな場所に出かけたり、まちの話をしたりして、小さな体験を積み重ね、地域への愛着や誇りを育んでほしい。
- ・少子高齢化の世の中だからこそ子どもたちが岐阜市に住み続けたいと思える取り組みをしていくことが大切。
- ・これからの時代は、リモートワークの導入などでワークスタイルの変化によりどこでも働くことができるようになる。だからこそ育った場所に愛着を持てるような取り組みによって長く住み続けられるまちを目指していくことが必要。

- ・シビックプライドの反対語は無関心だと思う。地域のことに関心を持って、楽しいと思うことを大切にして社会全体、地域全体にシビックプライドの輪が広がっていくことが必要。

地域を知ること

- ・学力や専攻等の関係で、高校生が市外の大学を選び、岐阜市を離れることがあるので、高校までの間に、岐阜市の良さを知ったり、まちとの繋がりがないと大学卒業後に戻ってくるきっかけがない。
- ・岐阜市が好きなので、生まれ育った市内の大学に進学することを選んだ。
- ・高校生の時に、授業でまち歩きや岐阜の歴史を学んだことがきっかけとなり、その魅力を発信する側になりたいと思っている。
- ・自分が大学で得た経験やキャリアを岐阜市で活かせる場がないと、見つけることができないと若い人たちは岐阜市から出ていってしまう。岐阜市にいてもこんな仕事ができる、こんな働き方があるということを知ることのできる機会を作ってはどうか。

人の繋がりが生まれる場所になること

- ・シビックプライドを育むには、家や学校、職場以外のサードプレイスがたくさんあるとよいのではないかな。そこに行けば知り合いができて、人とのつながりが生まれる場所が必要だと思う。
- ・公共施設に限らず商店街の店舗や居酒屋などもサードプレイスだと思うし、具体的な場所でなくても、人が集まっているだけの空間もサードプレイスと言える。
- ・誰でも気軽に集まれる開かれた場所が必要だと思う。人とのつながりを生むような場所があれば持続可能なまちづくりにつながると思う。

学習のデジタル化に関すること

- ・事前にタブレット等で様々な情報について調べ学習をした上で、実習などで実際に現地で体験することで深く濃い学びになるのではないかな。
- ・オンラインで授業を受けられるようになった。このままデジタル化がどんどん進んでいけば、誰もがどこでも学べるし、気軽に一生学び続けることができる。

デジタル化の良いところ

- ・デジタル化が進んだことで人と人がつながりやすくなった。
- ・社会から取り残されがちだった人も、家にいても人とつながれるようになった。
- ・オンラインでの出会いは人と関わるきっかけとしてはハードルが低く、気軽にコミュニケーションをとることができる。リアルな出会いまでのワンクッションになり、関わりの間口を広げてくれると思う。

【市民ワークショップ 概要】

全5回オンラインで実施（2021(R3)年8～9月）

参加人数111名（10代:14名 20代:23名 30代:30名 40代:28名 50代:16名）